

健康社会医学

1 構 成 員

	平成21年3月31日現在
教授	1人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	1人（0人）
助教（うち病院籍）	2人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	7人（1人）
研究生	1人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	2人
合 計	14人

2 教員の異動状況

- 尾島 俊之（教授）（H18. 4. 1～現職）
 早坂 信哉（講師）（H19. 4. 1～現職）
 村田千代栄（助教）（H17. 4. 1～19. 3. 31 助手；19. 4. 1～現職）
 野田 龍也（助教）（H19. 4. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成20年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	11編（3編）
そのインパクトファクターの合計	9.70
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	6編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	4編（4編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	8編（8編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Hayasaka S, Nakamura Y, Kajii E, Ide M, Shibata Y, Noda T, Murata C, Nagata K, Ojima T : Effects of charcoal kiln saunas (Jjimjilbang) on psychological states, *Complement Ther Clin Pract*, 14, 143-148, 2008. [-]
2. Hayasaka S, Shibata Y, Ishikawa S, Kayaba K, Gotoh T, Noda T, Murata C, Yamada T, Goto Y, Nakamura Y, Ojima T, The Jichi Medical School Cohort Study Group: Physical activity and all-cause mortality in Japan: The Jichi Medical School (JMS) Cohort Study, *J Epidemiol*, 19, 24-27, 2009. [1.91]
3. Hayasaka S, Takemura S, Murata C, Shibata Y, Noda T, Ojima T: Decreasing the number of public health centres (hokenjyo) in Japan, *Public Health*, 123, 194-195, 2009. [1.03]
4. Hayasaka S, Murata C, Shibata Y, Noda T, Ojima T, Takemura S: Author's response. *Public Health* 123: 198. 2009. [1.03]
5. 山田友世, 三枝智宏, 早坂信哉, 尾島俊之 : 抗マムシ毒素血清の有効性と不利益に関する研究, *救急医学*, 33(3), 359-363, 2009.
6. 柴田陽介, 村田千代栄, 野田龍也, 早坂信哉, 尾島俊之 : スポーツと死因別死亡の地域相関研究, *運動疫学研究*, 11, 8-16, 2009.

インパクトファクターの小計 [3.97]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Akizawa Y, Koizumi S, Itokawa Y, Ojima T, Nakamura Y, Tamura T, Kusaka Y : Daily magnesium intake and serum magnesium concentration among Japanese people, *J Epidemiol*, 18(4), 151-159, 2008. [1.91].
2. Okamoto R, Shiomi M, Iwamoto S, Hatono Y, Chiba Y, Ojima T, Bessyo Y, Nakayama K, Inoue K. Relationship of experience and the place of work to level of competency among public health nurses in Japan, *Japan Journal of Nursing Science*, 5, 51-59, 2008.
3. Matsumoto M, Ishikawa S, Kayaba K, Gotoh T, Nago N, Tsutsumi A, Kajii E, the Jichi Medical School (JMS) Cohort Study Group : "Risk Charts Illustrating the 10-year Risk of Myocardial Infarction among Residents of Japanese Rural Communities: The JMS Cohort Study", *J Epidemiol*, 19, 94-100, 2009. [1.91].
4. Ishikawa S, Matsumoto M, Kayaba K, Gotoh T, Nago N, Tsutsumi A, Kajii E, Jichi Medical School (JMS) Cohort Study Group : "Risk Charts Illustrating the 10-year Risk of Stroke among Residents of Japanese Rural Communities: The JMS Cohort Study", *J Epidemiol*, 19, 94-100, 2009. [1.91].
5. 橋本修二, 川戸美由紀, 加藤昌弘, 林正幸, 渡辺晃紀, 野田龍也, 尾島俊之, 辻一郎. 介護保険に基づく平均自立期間の算定方法の検討, *厚生*の指標, 55(10), 25-30, 2008.

インパクトファクターの小計 [5.73]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 尾島俊之, 健康危機管理におけるボランティアの意義と課題, 公衆衛生, 72(4), 254-255, 2008.
2. 尾島俊之, ボランティア研究班:災害におけるボランティアの役割, 保健医療科学, 57(3), 245-251, 2008.
3. 早坂信哉, 山岡泰治:原子力災害時のボランティア活動の課題と効果的な活動方策の検討. In 尾島俊之 (主任研究者):厚生労働科学研究費補助金地域健康危機管理研究事業. 地域における健康危機管理におけるボランティア等による支援体制に関する研究. 平成20年度総括研究報告書, 29-35, 2009.
4. 早坂信哉, 尾島俊之, 大西基喜:社会機能維持等の連携. 河原和夫 (座長):厚生労働省平成20年度地域保健活動普及等委託事業広域的健康危機管理対応体制整備事業, 新型インフルエンザ対策に係る広域連携のあり方に関する検討会報告書, 54-63, 2009.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 岸本益実, 澁谷いづみ, 佐々木隆一郎, 南部由美子, 高橋郁美, 早坂信哉, 曾根智史:健康危機管理における保健所支援体制構築に係る検討. 北川定謙 (主任研究者):厚生労働科学研究費補助金地域健康総合推進事業, 平成20年度地域健康総合推進事業発表会抄録集, 62-66, 2009.
2. 山口亮, 荒田吉彦, 伊藤正寛, 緒方剛, 角野文彦, 岸本益実, 国吉秀樹, 小林良清, 坂本泰啓, 佐藤克之, 中原由美, 早坂信哉:新型インフルエンザ対策行動計画案及び想定事例集作成事業. 北川定謙 (主任研究者):厚生労働科学研究費補助金地域健康総合推進事業, 平成20年度地域健康総合推進事業発表会抄録集, 95-96, 2009.

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 尾島俊之:ポピュレーション・アプローチとアセット・モデル, 日本公衛誌, 55(10), 733-736, 2008.
2. 尾島俊之:いまこそ現場で調査・研究を始めよう 事例に学ぶ前に押さえてたいポイント, 保健師ジャーナル, 64(6), 492-497, 2008.
3. 尾島俊之:我が国の健康格差, 日本医事新報, 4429, 101-102, 2009.
4. 尾島俊之:割合 (比率) の差の群間比較・分割表による検定, 小児科診療, 72(4), 693-698, 2009.
インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 尾島俊之:保健医療制度と医療資源, 柳川洋, 中村好一編集. 柳川洋, 尾島俊之, 坂田清美, 中村好一, 萱場一則, 中川秀昭, 黒沢洋一, 能川浩二著, 公衆衛生マニュアル2008, 南山堂, 2008.
2. 大井田隆, 兼板佳孝, 横山徹爾, 曾根智史, 山縣然太郎, 水嶋春朔, 尾島俊之, 青山旬, 谷

原真一，中山健夫，吉池信男，小橋元，青木良太，赤木真寿美，杉山龍司：図説 国民衛生の動向 2008，（財）厚生統計協会，2008.

3. 尾島俊之，荒木田美香子，五十嵐千代，佐甲隆，中板育美，三好ゆかり，山下清香，井伊久美子，佐藤美稚子，藤井広美，塚尾晶子，橋本結花：平成20年度先駆的保健活動交流推進事業，特定保健指導・コンサルテーション受託事業パイロットスタディ事業報告書，（社）日本看護協会，2009.
4. 尾島俊之：データから読み取る保健センター．伊藤雅治，尾島俊之，佐甲隆，曾根智史，田沢光正，村中峯子．平成20年度「市町村保健活動調査」「市町村保健センター及び類似施設調査」調査結果報告書．（社）全国保健センター連合会・（財）日本公衆衛生協会，2009.
5. 尾島俊之，野田龍也，渡辺晃紀：健康寿命の基礎資料の検討 ～多様な指標による健康寿命の算定から．橋本修二．厚生労働科学研究費補助金循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業 健康寿命の地域指標算定の標準化に関する研究 平成20年度総括・分担研究報告書．2009.
6. 尾島俊之，岩室紳也，洙田靖夫，鳩野洋子，早坂信哉，堀口逸子，三輪真知子，渥美公秀，飯吉令枝，石川貴美子，今福恵子，上田真仁，宇田川規夫，岡野谷純，奥野ひろみ，柴田陽介，篠崎博，菅磨志保，津賀高幸，土屋厚子，仲井宏充，中川和之，中山貴美子，西山慶子，野田龍也，蓮本浩介，原岡智子，深江久代，福永一郎，藤田治，船橋香緒里，三谷智子，村田千代栄，山岡泰治，渡邊輝美，渡辺元，渡辺善明，飛世由美子，岸尚子：厚生労働科学研究費補助金健康安全・危機管理対策総合研究事業 地域における健康危機管理におけるボランティア等による支援体制に関する研究，平成20年度総括研究報告書，2009.
7. 尾島俊之，早坂信哉，大西基喜：社会機能維持等の連携．河原和夫，他．平成20年度広域的健康危機管理対応体制整備事業 新型インフルエンザ対策に係る広域連携のあり方に関する検討会報告書，（財）日本公衆衛生協会，2009.
8. 尾島俊之：いいとこ発見モデル（アセット・モデル），下田智久，岩室紳也，平成20年度地域保健総合推進事業 ポピュレーション・アプローチ推進・評価事業報告書，（財）日本公衆衛生協会，2009.

4 特許等の出願状況

	平成20年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成20年度
(1) 文部科学省科学研究費	4件 (367万円)
(2) 厚生科学研究費	6件 (500万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	1件 (180万円)
(5) 受託研究または共同研究	1件 (20万円)

(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件 （ 0万円）
--------------------	-----------

(1) 文部科学省科学研究費

尾島俊之（代表者）基盤研究（C）生活習慣病等へのポピュレーション・アプローチの具体的方法とその効果に関する研究，平成19～21年度，170万円（+間接費51万円）
（継続）

尾島俊之（分担者）基盤研究（B）介護予防に向けた社会疫学研究－健康寿命をエンドポイントとする大規模コホート研究，平成18～21年度，10万円（継続）代表者 日本福祉大学社会福祉学部 近藤克則

村田千代栄（代表者）盤研究（C）地域在住高齢者の受療行動に関する日米比較研究 182万円
（継続）

村田千代栄（分担者）基盤研究（B）介護予防にむけた社会疫学研究－健康寿命をエンドポイントとする大規模コホート研究，平成18～21年度，5万円（継続）代表者 日本福祉大学社会福祉学部 近藤克則

(2) 厚生科学研究費

尾島俊之（代表者）地域健康危機管理研究，地域における健康危機管理におけるボランティア等による支援体制に関する研究，平成19～21年度 350万円（継続）

尾島俊之（分担者）循環器疾患等生活習慣病対策総合研究，健康寿命の地域指標算定の標準化に関する研究，平成19～20年度 150万円（継続）代表者 藤田保健衛生大学 橋本修二

尾島俊之（分担者）子ども家庭総合研究事業，健やか親子21を推進するための母子保健情報の利活用および思春期やせ症防止のための学校保健との連携によるシステム構築に関する研究，平成19～20年度，研究費研究代表者一括（継続），代表者 山梨大学大学院 山縣然太郎

早坂信哉（分担者）地域健康危機管理研究，地域における健康危機管理におけるボランティア等による支援体制に関する研究，平成19～21年度 研究費研究代表者一括（継続），代表者 浜松医科大学 尾島俊之

野田龍也（分担者）UNGASS REPORT等の報告書作成に必要な情報を収集・分析する研究，平成20～21年度 研究費研究代表者一括（新規）代表者 東京大学 小池創一

野田龍也（分担者）厚生労働統計調査の精度向上および有効利用に関する研究，平成20～21年度 研究費研究代表者一括（新規）代表者 東京医科歯科大学 大山篤

(4) 財団助成金

早坂信哉（代表者）島田市における温泉の利用と健康増進についての研究 180万円（新規）財団法人日本健康開発財団

(5) 受託研究または共同研究

早坂信哉（代表者）岩盤浴の身体・心理面への影響についての研究 有限会社不二熱設備20万円（継続）

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	2件
(2) シンポジウム発表数	2件	1件
(3) 学会座長回数	0件	7件
(4) 学会開催回数	0件	1件
(5) 学会役員等回数	1件	12件
(6) 一般演題発表数	7件	

(1) 国際学会等開催・参加

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Murata C, Ojima T, Yamada T, Chen C-C, Hirai H, Kondo K. Barriers to care among the elderly in Japan (Organized session: Lessons from the Japanese National Healthcare Program Trend, Development, and Future), 2nd Biennial Conference of the American Society of Health Economists (第2回アメリカ医療経済学会), Durham (USA), June 2008.
2. Yasuda T, Zhang Y, Kubota K, Nagata K, Hirokado Y, Sasaoka T, Yano T, Murata C, Ojima T. : Effects of acupressure massages on alleviation of menopausal symptoms, The 8th Kyungpook-Hamamatsu Joint Medical Symposium, Hamamatsu, Sept 2008.

5) 学会発表

口頭発表

1. Chen C-C, Yamada T, Murata C, Hirai H, Ojima T, Kondo K. Unmet Needs and Delayed Health Care: Healthcare Coverage and Cognitive Differences, American Society of Health Economists, June 2008, Durham (USA)

ポスター発表

1. Ojima T, Murata C, Shibata Y, Tsutsui H, Hirai H, Kondo K. Sports participation and longevity : the AGES project cohort study, The 7th World Congress on Aging and Physical Activity, July 2008, Tsukuba (Japan)
2. Shibata Y, Ojima T, Noda T, Murata C, Hayasaka S. Relationship between socioeconomic status and sports activities among the elderly in Japan. The 7th World Congress on Aging and Physical Activity (J Aging Phys Act 16 (suppl): S220, 2008.), July, 2008, Tsukuba (Japan)
3. Ojima T, Murata C, Hayasaka S, Haraoka T, Shibata Y, Noda T, Miwa M. Factors associated with participation in volunteer disaster response activities, The 18th IEA (International

- Epidemiological Association) World Congress of Epidemiology, Sept 2008, Porto Alegre (Brasil)
4. Yanagawa H, Shinmura H, Nakamura Y, Wakabayashi C, Ojima T. Recent changes in smoking patterns of Japanese population: an analysis of the results of national nutrition survey 1988-2005, The 18th IEA (International Epidemiological Association) World Congress of Epidemiology, Sept 2008, Porto Alegre (Brasil)
 5. Yanagawa H, Wakabayashi C, Ojima T, Shinmura H, Nakamura Y. Yearly changes in obesity, energy intake and physical activities in Japanese population. The 18th IEA (International Epidemiological Association) World Congress of Epidemiology, Sept 2008, Porto Alegre (Brasil)
 6. Murata C, Hirai H, Yamada T, Chen C-C, Ojima T, Kondo K. Health care seeking behaviors among elderly: Japan - US Comparative Study, The 136th Annual Meeting of American Public Health Association, October 2008, San Diego (USA)

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

第54回東海公衆衛生学会学術大会, 2008年7月, 静岡市 (学術大会長 青木伸雄名誉教授)

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 尾島俊之: 特定健診・特定保健指導とポピュレーション・アプローチ, 第54回東海公衆衛生学会学術大会サテライト集会, 2008年7月26日, 静岡
2. 野田龍也: 小児の発熱と翌日の欠席率について, 第14回日本保育園保健学会, 2008年10月26日, 東京都千代田区

3) シンポジウム発表

1. 尾島俊之, 柴田陽介, 野田龍也, 村田千代栄, 早坂信哉: スポーツ行動を規定する要因: 循環器疾患予防のポピュレーション・アプローチのために, 第44回日本循環器病予防学会, 秋田, 2008年5月23~24日

4) 座長をした学会名

尾島俊之 第67回日本公衆衛生学会総会
尾島俊之 第19回日本疫学会学術総会
尾島俊之 第55回日本学校保健学会
尾島俊之 第54回東海公衆衛生学会学術大会
尾島俊之 第45回静岡県公衆衛生研究会
早坂信哉 第73回温泉気候物理医学会総会
早坂信哉 第67回日本公衆衛生学会総会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

尾島俊之 日本公衆衛生学会 評議員
 尾島俊之 日本公衆衛生学会 査読委員
 尾島俊之 日本疫学会 評議員
 尾島俊之 日本疫学会 ニュースレター編集委員長
 尾島俊之 日本疫学会 広報委員会委員
 尾島俊之 日本疫学会 将来構想検討委員会委員
 尾島俊之 日本循環器管理研究協議会 理事
 尾島俊之 東海公衆衛生学会 理事
 早坂信哉 日本公衆衛生学会 評議員
 早坂信哉 日本プライマリケア学会 評議員
 早坂信哉 日本温泉気候物理医学会 評議員
 早坂信哉 日本温泉気候物理医学会 広報情報委員会委員
 村田千代栄 アメリカ公衆衛生学会 査読委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

尾島俊之 5回 Journal of Epidemiology (Japan)
 村田千代栄 2回 Social Science & Medicine (USA)
 2回 Public Health Nursing (USA)
 1回 Journal of Psychosomatic Research (USA)

9 共同研究の実施状況

	平成20年度
(1) 国際共同研究	2件
(2) 国内共同研究	9件
(3) 学内共同研究	1件

(1) 国際共同研究

1. 日米の高齢者の受療行動に関する研究(文部科学省科学研究費), Rutgers University (Tetsuji Yamada), Colombia University (Chia Chin Cheng), New York University (Michael Grossman): USA, H19-20, 資料の交換・共同研究
2. EASS2010 (Eastern Asian Social Survey 2010) (文部科学省など) : Hong Kong University of Science and Technology, Renmin University : China, Sungkyungwan University, Yonsei University : Korea, Institute of Sociology, Academia Sinica, National ChengChi University : Taiwan, H20-22, 調査票設計・資料交換

(2) 国内共同研究

1. 近藤克則（日本福祉大学社会福祉学部）AGES（愛知老年学的評価研究）：地域在住高齢者の要介護発生に関わる要因に関する追跡研究
2. 石川鎮清（自治医科大学地域医療学センター）JMSコホート研究
3. 山縣然太朗（山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座）健やか親子21の推進のための情報システム構築および各種情報の利活用に関する研究
4. 橋本修二（藤田保健衛生大学医学部衛生学講座）健康寿命の地域指標算定の標準化に関する研究
5. 福島邦博（岡山大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科）聴覚器戦略研究，聴覚障害児の療育等により言語能力等の発達を確保する手法の研究
6. 下田智久（日本公衆衛生協会），岩室紳也（地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター）ポピュレーション・アプローチ推進評価事業
7. 若林チヒロ（埼玉県立大学）健康危険因子としてのライフスタイルの変容を評価するための指標の開発と分析
8. 上原久，野中猛，平野隆之（日本福祉大学）地域自立支援協議会の活性化に向けた個別支援会議の運営指標開発および課題把握に関する研究
9. 岩井紀子（大阪商業大学JGSS研究センター）JGSS2010（Japanese General Social Survey），EASS2010（Eastern Asian Social Survey 2010）

(3) 学内共同研究

- 菱田明，藤垣嘉秀，坂尾幸俊（内科学第一）減塩及び慢性腎臓病（CKD）に関する研究

10 産学共同研究

	平成20年度
産学共同研究	1件

1. 有限会社不二熱設備 岩盤浴の身体・心理面への影響についての研究

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 健康危機管理に関する研究

厚生労働科学研究（地域健康危機管理研究事業）として，行政・関係機関・住民等がより確実かつ安全に健康危機に対応できることに資するべく研究を行った。全国の市町村等への調査，平成19年新潟県中越沖地震被災地である柏崎市の全町内会長への調査等を行い，検討を行った。

（尾島俊之，早坂信哉，村田千代栄，野田龍也，九州大学，順天堂大学，地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター，保健計画総合研究所，大阪大学コミュニケーションデザイン・センター，内閣府防災ボランティア活動研究会安全衛生部会）

また，本研究にも関連して，日本公衆衛生協会による平成20年度厚生労働省広域的健康危機管理対応体制整備事業健康危機管理広域連携会議に参画し，新型インフルエンザ対策に関する報告書の作成，全国の厚生局単位等の各地区ブロック検討会での検討成果の説明等を行った。

(尾島俊之, 早坂信哉, 日本公衆衛生協会等)

さらに, 新型インフルエンザ対策の保健所用マニュアルの作成, 市町村用マニュアルの作成への参画を行った。(早坂信哉, 全国保健所長会)

2. AGES (愛知老年学的評価研究) プロジェクト

日本福祉大学の近藤克則教授が中心となって進めているAGES (Aichi Gerontological Evaluation Study, 愛知老年学的評価研究) プロジェクトに, 当教室も関わっている。本研究は1999年に愛知県の2自治体で始まり, 2003年には, 3県15自治体における一般高齢者3万人の大規模コホートとなった。H19年度より科学研究費を得て, 高齢者の受療行動(健診受診など)についての日米比較研究に着手した。その結果については, アメリカ医療経済学会, アメリカ公衆衛生学会, 東海公衆衛生学会, 日本疫学会で発表した。健康の格差についての論文は「公衆衛生」誌に投稿, 受理された。日米比較の結果については論文執筆中である

(村田千代栄, 尾島俊之, AGESプロジェクト, 日本福祉大学COE推進室)

3. JMSコホート研究

自治医科大学地域医療学センターが中心になって, 全国12地区の合計1万人の地域住民を10年間以上追跡して実施している大規模コホート研究に参画している。余暇, 仕事, それらの合計の身体活動度(Physical Activity Index)と, 総死亡, 循環器疾患の死亡及び発症, その他の健康に関するアウトカムに関する分析を進めた。

(早坂信哉, 柴田陽介, 尾島俊之, 自治医科大学地域医療学センター, JMSコホート研究グループ)

4. 温泉等の効果に関する研究

静岡県島田市の川根温泉において水中運動を中心とした介入研究を行いメタボリックシンドローム改善等に関する効果を検討した。(早坂信哉, 柴田陽介, 尾島俊之, 日本健康開発財団)

また, 最近施設が増加している岩盤浴の身体・精神面への効果及び影響に関する調査を行った。(早坂信哉, 不二熱設備)

さらに, 静岡県島田市において特定健診受診者のデータを解析して, 入浴習慣や温泉利用と健康状態の関連の検討を行った。(尾島俊之, 早坂信哉, 柴田陽介, 日本健康開発財団)

5. 健康寿命の地域指標算定の標準化に関する研究

厚生労働科学研究(循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業「健康寿命の地域指標算定の標準化に関する研究(研究代表者 藤田保健衛生大学医学部衛生学講座 橋本修二教授)の分担研究として実施した。当講座では, 健康寿命算定について種々の方法を検討した。

(尾島俊之, 野田龍也, 藤田保健衛生大学, 東北大学)

6. JGSS, EASS 研究

JGSS (Japanese General Social Surveys, 日本版総合的社会調査) 研究センターは文部科学省

より共同研究拠点として認定され、EASS（East Asian Social Survey）2010では、「東アジアの健康と社会」（仮）をテーマとして、肉体的・精神的・社会的健康に関する調査項目を日本・韓国・中国・台湾で共通に設け、2010年の実施を目指している。本調査には医療アクセスや医療に関する不安についての質問項目をいれる予定である。現在は調査票設計を進めると共に、総括班が整備した既存データの分析を、国内データ、国際比較データについて順次進めている。

（村田千代栄，EASSプロジェクト，JGSSプロジェクト）

7. その他の研究

幼児に対するうがいや手洗いの普及と感染症発生の関係について研究，ポピュレーション・アプローチに関する研究，健やか親子21を推進するための母子保健情報の利活用および思春期やせ症防止のための学校保健との連携によるシステム構築に関する研究，聴覚障害児の療育等により言語能力等の発達を確保する手法の研究等を行った。

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

健康危機管理に関する研究では，日本公衆衛生協会・全国保健所長会等に協力し，新型インフルエンザ対策等に関する報告書等をまとめ，その普及を行った。災害ボランティアの現状と課題について衆議院原口一博議員にレクチャーを行った。

AGESプロジェクト，JMSコホート研究では，大規模コホート研究によって，今後の保健医療福祉施策に有用な知見を得た。

「入浴関連事故の防止と原因解明に向けて」(声明文，日本温泉気候物理医学会) に関して厚生労働副大臣渡辺孝男参議院議員にレクチャーを行った。

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

地域における健康危機管理におけるボランティア等による支援体制に関する研究は，公衆衛生学の視点から一般ボランティアについて系統的に扱った初めての研究である点が独創的である。また，新型インフルエンザの対応等の検討は，実際に新型インフルエンザが発生した状況の中で，応用性の高い研究となった。

AGESプロジェクトは，公衆衛生学のみならず，社会学，経済学，地理学などの研究者が名を連ねるなど学際的である。また，所得や教育と健康の関連についても検討を加えるなど独創的な視点から研究が進められている。一般高齢者3万人を対象にしたコホート研究は，国内外でも稀少であり，文部科学省研究費を得て，日米の高齢者の受療行動について，アメリカの大学との比較共同研究に着手した経緯がある。この研究は，根拠に基づく保健医療政策立案に向け，基礎的データの提示を目標としているが，政策に直結するこのような実証研究への期待は今後ますます高まると思われ，研究の継続性，政策への応用性が見込まれる。

JGSSプロジェクトは，1999年から蓄積されてきた総合的社会調査に基づく共同研究であり，大阪商業大学，東京大学，早稲田大学などが参加している。「大阪商業大学 JGSS研究センター」は学術フロンティア推進拠点として文部科学省の助成をうけながら，2000年調査からこれまで6回の全国調査を実施してきた。さらに，2003年に台湾，韓国，中国の研究機関と共同で，East Asian

Social Surveys (EASS) プロジェクトを立ち上げ、国際比較研究を行ってきた。本プロジェクトには、調査設計の初期段階、データ収集後の分析段階から柔軟に共同研究に参加できる体制があり、社会調査データに基づく日本社会の現状と変容についての共同研究、および東アジア諸地域との比較分析を行う共同研究が可能であり学術的意義は大きい。

15 新聞、雑誌等による報道

1. 柴田陽介・他，徳島新聞：自殺予防に役立つ身体活動（2008. 4. 27）
2. 柴田陽介・他，愛媛新聞：自殺予防に男は余暇・女は仕事（2008. 4. 29）
3. 柴田陽介・他，神戸新聞：男は余暇，女は仕事の勧め（2008. 5. 2）
4. 柴田陽介・他，下野新聞：男性は余暇 女性は仕事－体動かすと自殺者少なく（2008. 5. 10）
5. 柴田陽介・他，佐賀新聞：男は余暇，女は仕事（2008. 5. 13）
6. 柴田陽介・他，山陰中央新聞：自殺予防に身体活動－男は余暇，女は仕事で（2008. 5. 14）
7. AGESプロジェクト，日本疫学会ニュースレターNo.29：AGESプロジェクトと健康の不平等研究会（2008. 4）
8. AGESプロジェクト，Medical Tribune：新規要介護認定者の4割は「リスクなし」から発生（2008. 4. 3）
9. AGESプロジェクト，朝日新聞：男性死亡率 格差3倍（2008. 11. 8）
10. 柴田陽介・他，Medical Tribune：日本疫学会発表「身体活動と循環器疾患死亡との関連－JMSコホート研究」（2009. 03. 19）